灯油	一・〇	一・〇	一・〇			
トリエチルアミン	一・〇	一・〇				
トルエン	一・〇	一・〇				
ナフサ	一・〇	一・〇				
二硫化炭素	四・二	一・〇				
ビニルエチルエーテル	一・六	一・四				
プロパノール	一・〇	一・二				
二―プロパノール	一・〇	一・〇				
プロピルアミン	一・〇	一・〇				
ヘキサン	一・〇	一・〇				
ヘプタン	一・〇	一・〇				
ベンゼン	一・〇	一・〇				
ペンタン	一・〇	一・〇				
メタノール	二・二	二・四				
メチルエチルケトン	一・〇	一・〇				

別表第二（第四条第一号ロ関係）

別表第一に掲げる危険物以外の危険物及び同表において係数を定めている危険物以外の危険物に係る係数は、一に規定する装置を用い、二に規定する試験の実施手順に従って得られる数値に基づき、三に規定する算式により求めるものとする。

一　装置

装置は、図一又は図二に示すカップ燃焼装置とする。

二　試験の実施手順

イ　燃料貯蔵器の中に危険物を入れる。

ロ　燃料貯蔵器の下のスタンドを調節して、危険物の高さがカップ最先端から一ミリメートル以内になるようにする。

ハ　危険物の温度を、二十五度又は引火点より五度高い温度のうちいずれか高い方の温度になるようにカップのヒータで調節する。

ニ　適当な方法で危険物に点火する。

ホ　空気の流量を四十リットル毎分に調節する。

ヘ　消火剤を流し始め、炎が消えるまで少しずつ流量を増加し、炎が消えた時点の消火剤の流量を記録する。

ト　十ミリリットル程度の危険物をカップの表面からピペットで除く。

チ　ニからトまでの操作を三回以上繰り返し、結果を平均する。

リ　次の式によってTCを算出する。

$$TC=\frac{Vf}{40+Vf}\times 100$$

TCは、消炎濃度（単位　パーセント）

Vfは、炎が消えた時点の消火剤の流量の平均値（単位　リットル毎分）

ヌ　危険物の温度を、沸点より五度低い温度又は二百度のうちいずれか低い方の温度になるようにカップのヒータで調節する。

ル　ロ及びニからリまでの操作を繰り返す。

ヲ　ロからリまでの操作結果又はヌ及びルの操作結果のうち高い方のTCの値をCとする。

三　係数の求め方

係数は次の式により求める。ただし、消火剤がハロン一三〇一で、かつ、二に規定する試験手順によって算出した値Cが三・三パーセント以下である場合、消火剤がハロン一二一一で、かつ、Cが三・八パーセント以下である場合、消火剤がＨＦＣ―二三で、かつ、Cが十二・四パーセント以下である場合又は消火剤がＨＦＣ―二二七ｅａで、かつ、Cが六・四パーセント以下である場合にあっては、係数は一・〇とする。

$$K=\frac{\ln\left(1-\frac{C}{100}\right)}{\ln\left(1-\frac{Cs}{100}\right)}$$

Kは、係数（消火剤がハロン一三〇一又はハロン一二一一である場合にあっては小数点以下第二位を四捨五入して得た数値を〇・二刻みとして切り上げるものとし、消火剤がＨＦＣ―二三又はＨＦＣ―二二七ｅａである場合にあっては小数点以下第二位を切り上げるものとする。）

Csは、ノルマルヘプタンの係数を一とするための基準濃度であって、ハロン一三〇一にあっては三・〇パーセント、ハロン一二一一にあっては三・五パーセント、ＨＦＣ―二三にあっては十二・四パーセント、ＨＦＣ―二二七ｅａにあっては六・四パーセントとする。

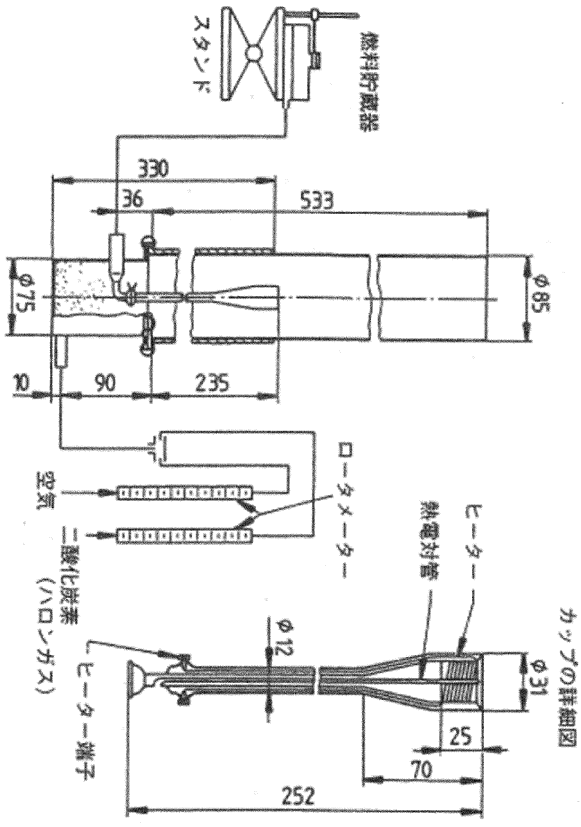


図１　カップ燃焼装置